

介護苦で月2、3人が身内を殺している

3週間ほど前、豊島区池袋3丁目59歳の夫が妻(73)を殺している。

夫婦は2人暮らし。15年ほど前に妻が脑梗塞で倒れ、車イス生活を送っていた。「介護に疲れまし

た」男は、こう供述している。幼稚園のバス運転手で、普段ならそろそろ仕事先へ向かう朝6時に妻の首に手をかけた。実は、介護業界で最も怖いとされる時刻だ。長い夜をひとりで悶々と過ごし、朝日を浴びる。ふと我に返ったこの瞬間こそが、危ない。



上原喜光

1億人介護 のための

私の働く団体事務所は殺人現場と目と鼻の先にある。意外に思われるかもしれないが、この辺は下町の名残をとどめている。ちよっと前

65歳以上の要介護者の殺人事件は、08年までの過去3年で報道されただけでも97件。月2、3回の割合で被害者と殺人犯がつくられている。

なら、作り過ぎた煮物を持った主婦が、「おばあちゃん、最近どう？」と声をかけ合っていたものだ。

先週、94歳の寝たきりの母を絞め殺した息子(68)に、岡山地裁が懲役6年(求刑7年)を言い渡した。裁判長は「母の介護について善後策を検討せず、安易で身勝手」と断罪している。

事件後に都議選

が

が始まった。「福祉を充実させます」と連呼する選挙カーが現場を何台も通り過ぎて行った。だが、都議会補はおろか、ひとりの区議すら亡くなった夫人に線

なぜ、介護保険制度を使っている者の心のケアもできないのか。必要なら力ウンセリング費用も国が負担すべきだ。私が所属する団体は、「全国介護者支援協議会」という。あえて「者」を付けた意味が、そこにある。

新企画

香をあげにきてくれた人はいなかったようだ。

(全国介護者支援協議会会長)